

▲「異常事態」の小泉首相



脳梗塞の前兆ではないのか

その異常事態が起きたのは5月9日の国会だった。

衆議院の武力攻撃事態への対処に関する特別委員会で、民主党の末松義規代議士が、「米国の同時多発テロのような事件が日本で起きた場合の対応策を、政府はいつになったら示すつもりか」と質問した。それに対し、小泉純一郎首相はこう答弁したのである。

「これは9月……昨年9月11日のアメリカのテロ……（沈黙）。

事件のようなことが、仮にですね、日本で起こった場合は、アメリカのような対応は、できないと思いますね。個別自衛権発……発動してね……ああ……。

それは、とてもアメリカみたいなおかしい。しかしながら、もし、あのような事件が起こったならば……ああ……どうするかというのは……ええ……、その時々ケースで違いますし、あの、アメリカと日本の事情は違う……」

と答弁していた就任時とはまるで異なり、声は小さく途切れ途切れ。表情も暗く、覇気がない。

「取材のときも首相は声が小さい。とくに最近、言葉が出てこなくて、間が妙に空くので、どこか体が悪いのではないかと囁かれています」（全国紙首相番記者）

言葉がすぐに出てこない。数秒遅れで出てくる言葉は「冷静に」などという中身の無い抽象的で無意志なものばかり。自らの脳ミソを使ったとは思えない拙い表現のオンパレードだ。

いま永田町では、小泉首相は「壊れたレコード」と呼ばれている。冒頭の国会のシー

80年5月、大平正芳首相は衆参同日選挙中に入院。半月後に亡くなった。狭心症だった。00年4月、小渕恵三首相は脳梗塞に倒れ、1カ月半後に「帰らぬ人」となった。石橋湛山、池田勇人。在任中に倒れた総理は少なくない。総理の仕事はそれだけ激務ということだ。そしていま、小泉首相に何か起きています。

ンがそうだが、最近、質問と回答のあいだに間があく。表情は固まったまま。頭の中で何か探しているが、みつからないといった顔をよくする。この感じが、実は2年前に脳梗塞で死去した小渕恵三元首相の、倒れる直前の表情にそっくりだとの政界関係者の指摘がある。

首相は過度のストレスをともなう激務だ。小泉首相もこの1年で、相当くたびれており、健康状態も万全とは言えない。ストレスを紛らわすために、日本酒を愛飲しているが、それだけでストレス解消できるわけではない。地方へ行った帰り、列車の中でコップ酒をおおる癖があるが、これについては批判がある。

小泉首相は、ここにきて情緒も不安定だ。たとえば4月

大丈夫が小泉

言葉が

25日の辻元清美氏の参考人質疑後、記者に感想を求められた首相は、いかにもイライラした様子でこう吐き捨てた。「見てないんだ！ 日程を見てくれよ、テレビ見ている時間なんかないんだから！」

また、つい最近、首相に近い議員と話しているときに、突然次のように一方的にまくしたてている。

「マスコミも自民党もオレのことをとやかく言うけどな、

自民党だって大変ということでは変わらないんだ。これからもっと大変になるんだよ。もう派閥なんて成り立たなくなるんだから。オレなんか口を開けば『政権基盤が弱い』って言われてばかりだけど、政権についたときからそうなんだから、そんなのどうってことない。ああ、全然平気だね、オレなんかは！」

精神状態が安定しない首相の様子に、後見人を自負する森喜朗前首相も頭を悩ませているという。

「森さんによると、家族がいらない小泉は公邸に一人きりで、ストレスをうまく解消することができない。公邸の庭に板を立ててボールをぶつけ、一人キャッチボールをしているそう。見かねた森さんが、それとなく再婚を勧めたやに聞いている。若いといっても、もう60歳。激務で体重も45kgほど落ちてきているというから、相当疲れているのだろう」（自民党幹部代議士）

田中真紀子前外相が次々と巻き起こすゴタゴタから始まって、宗男疑惑に盟友・加藤

紘一元幹事長の議員辞職、山崎拓幹事長の「変態」騒動。さらには日に日に強まる抵抗勢力の逆襲や、スムーズに運ばない国会運営で、首相のストレスは溜まりに溜まっていく。加えてハードなスケジュールが襲いかかった。

4月の前半こそ2日に一度

生あくびが出るのは要注意

情緒は不安定、時折ポカーンとした表情をするし、言葉もすっと出てこない。反応が遅れたり鈍い。はたして首相は大丈夫なのだろうか。小淵元首相のような脳梗塞の前兆ではないのか。本誌は冒頭の国会答弁のビデオを専門医に見てもらった。医者の診立てはこうだ。

「脳梗塞だった小淵さんの場合、倒れる前の国会答弁の映像を見てみると、1分ぐらい失語症状態になり、視点が固定されて、表情が虚ろになっていました。そのため私は、『軽い発作を起こしているな』と見ていたんです。それと比べると、今回の小泉さんのケースでは、目線は動いているし、表情も虚ろではない」（く

は午前10時以降の官邸入りと、『寝坊モード』だったが、4月15日から5月3日の間は様子が一変する。午前8時台の官邸入りが続いた上、19日ぶつとおして休みなし。すっかり体が『寝坊モード』になじんでいる首相は、さぞ疲れたことだろう。

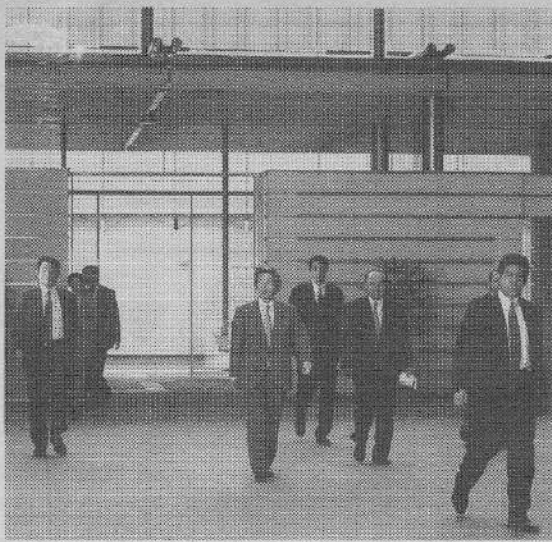
「どうちあき脳神経外科クリニック院長・工藤千秋氏」

つまり、いまのところは大丈夫ということのようだ。ただし、首相のようなストレスが溜まる仕事の場合、脳疾患に罹るリスクはかなり高いと考えられる。さらに工藤氏はその兆候について説明した。

「小淵さんが倒れた日は、小沢一郎氏が率いる自由党の連立与党離脱問題などかなりストレスが溜まっていたんでしょ。小泉首相も含め、誰でも何かのはずみで小淵さんのようになる可能性がある。それろれつが回らなくなり、特にサ行・タ行・ラ行の発音が悪くなったら要注意。それに生あくびを頻発する、目が虚ろになるなどの兆候が出て、突

故・小淵元首相が倒れた時にそっくり

◀新官邸入りした首相。いつまでここに、住める、か



然、激しい頭痛と吐き気がきたら、ただちに専門医の診断を仰ぐ必要があります」

脳梗塞などの脳疾患の予防には、コレステロールや中性脂肪の値にも注意を要する。つまり、脂っこい料理を避け、たほうが良いというのだが、小泉首相は最近、好んで高級フランス料理店などに出かけていた。

「首相は有楽町や広尾の高級店で食事をしています。スケジュールに余裕があった4月前半は連日行っていた。最近、生あくびをしているのも気になる」(全国紙政治部記者)

そして、ストレスは今後、強まりこそすれ軽減する見込みはない。「仲間」までもが批判

判を浴びせ始めたのだから。

実は、4月9日、首相は「意見番」を任じる中曽根康弘元首相と大ゲンカをしていた。赤坂プリンスホテルにあるレストランで会食中、内閣改造をめぐって次のようなやりとりがあったのである。

中曽根 キミはひとりではない。自分のものだと思っているのか。田中外相は更迭したが、まだまだ問題閣僚がいる。党の実力者(野中広務元幹事長や亀井静香前政調会長のこと)を(内閣に)入れたらどうだ。小泉 (それは) 抵抗勢力を入れるということじゃないですか。

ヤケクソの行動に出るタイプ

こんな状況では、首相がいつ本格的な「病人」になってもおかしくないが、永田町の病人は何も首相だけでは無い。その筆頭は、「どうみても5〜10kgは痩せている。盲腸の手術後にしては不自然」(亀井氏の姿をみた外科医)

と言われる亀井氏である。確かに素人の目で見ても、亀

結果、ふたりは険悪な雰囲気のまま別れたというのである。それまで首相を擁護していた中曽根氏は、この日以来、完全に首相に愛想を尽かしたらしく、5月13日には、「(党首討論時の首相は)新米代議士のような感じだ。小泉君にはしっかりやってもらいたい。しかし能力不足だ」と一刀両断した。

また、森前首相も、「小泉君がいまやっていることは、全部、橋本・小淵・私の内閣で決めたことばかり」と清和会(森派)の懇親会(14日)で挨拶。この内閣は自分たちの「影武者内閣」と公言して胸を張ったのである。

井氏の激ヤセぶりは異様な感じがする。本人は、「(医者に)診てもらって痩せたんだ。健康になった」と周囲に健在ぶりをアピールしているが、野中氏からは「何を言われるかわからんからテレビには出るな」とクギをささげられている。心臓の手術をした橋本龍太郎元首相は、かつてはヘビー

スモーカーとして知られたが、「もうタバコを喫う気がしない」と怪しくパイポをくわえている状態。また、息子・太郎氏から肝臓の提供を受けて生体肝移植手術をした河野洋平元外相は、いまでも入院中だ。

首相を脅かすライバルたちは、そろって元気がない。だが、小泉首相も著しく求心力を失いつつある。5月14日、自民党の「改革決死隊」の若手9名が、改革実現を迫るために首相官邸を訪れた。そのとき首相は、「改革の気持ちは変わっていない。抵抗勢力もいずれは味方になってくれる」と従来と同じセリフを繰り返すばかりで、決死隊の面々を落胆させている。

「首相はいまや壊れたレコードと同じ。もう何がなんだかわからなくなっている」

自民党の幹部代議士はこう言っている。政治評論家の三宅久之氏も次のように批判する。「小泉首相には国会で重要法

案のどれから手をつけていくかの政局観すらない。戦略がまるでありません」

こんな半死半生状態で、内閣はガラガラと続くのだろうか。政治家の発言や行動をチェックしてきた精神科医・和田秀樹氏は、首相の気質をこう分析する。

「首相はメラニコリー親和性格だと思われま。自分の秩序の中に自らを押し込める一方、特定他者に献身的につきあうタイプ。ただ、その秩序が守れなくなると鬱になる。たとえば抵抗勢力に追い込まれて、やりたいことができなくなるとき、ヤケクソの行動に出る可能性があります」

サラサ SARASA

ノック式ジェルインク(水性顔料)ボールペン
サラサラ書き味、全10色で新登場。

ZEBRA®
This is a Pen.